



2023年12月期 第2四半期
決算説明資料

株式会社コアコンセプト・テクノロジー（証券コード：4371）

2023年8月10日



1 エグゼクティブ・サマリー P-3

2 業 績 報 告 P-5

3 ビジネスモデル P-19

4 成 長 戦 略 P-25

5 A P P E N D I X P-30

1 エグゼクティブ・サマリー

2023/12期 Q2決算

前年同期比で増収・増益

	2022Q2 (個別)	2023Q2 (連結)		前年同期比	
売上高	5,734	7,486	百万円	+30.6	百万円
営業利益	690	796	百万円	+15.3	百万円
営業利益率	12.0	10.6	%	▲1.4	ポイント

Q2トピックス

◆ 連結決算の開始

- ※子会社となったピージーシステム社について、連結ではBSをQ2から、PLをQ3から取り込む
- ※関連会社であるDTダイナミクス社について、連結では持分法を適用し、CCTに帰属する当期純利益（1-6月分）を営業外収益として取り込む
- ※本日開示の連結業績予想はピージーシステム社及び電創社の計画を織込済

◆ 株式会社電創の株式取得（完全子会社化）

- ※株式譲渡日は8月1日
- ※BSはQ3から、PLはQ4から取り込む予定

2 業績報告

◆ 前年同期比で増収・増益（以下の増減額/増減率は 2022Q2個別 vs 2023Q2連結）

◆ ピージーシステム社の損益はQ3から取り込む

	個 別	(参考)個別	連 結
	2022 Q2	2023 Q2	
売上高	5,734	7,486	7,486
外注費	3,384	4,613	4,613
人件費	693	842	842
その他原価 ※1	142	117	117
売上総利益 ※1	1,514	1,913	1,913
販管費 ※1,2	823	1,086	1,116
営業利益	690	826	796
経常利益 ※3	714	836	811
四半期純利益	524	605	580
売上総利益率	26.4%	25.6%	25.6%
営業利益率	12.0%	11.0%	10.6%
外注費率	59.0%	61.6%	61.6%

単位：百万円

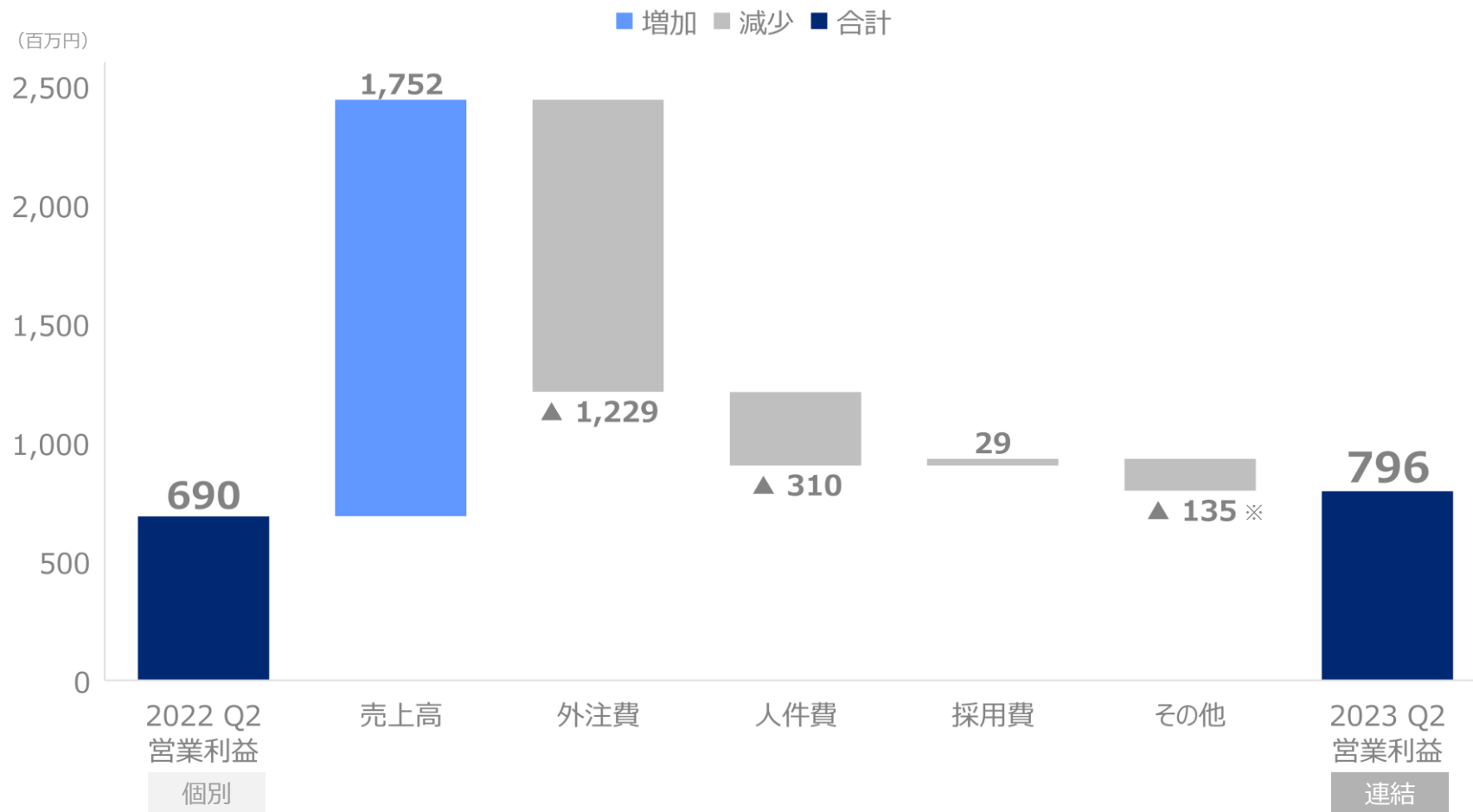
増減額	増減率	連結業績予想	進捗率
+1,752	+30.6%	16,093	46.5%
+1,229	+36.3%	—	—
+149	+21.6%	—	—
▲25	▲18.0%	—	—
+398	+26.3%	—	—
+292	+35.5%	—	—
+105	+15.3%	1,608	49.5%
+96	+13.5%	1,626	49.9%
+55	+10.6%	1,133	51.2%
▲0.9P	—	—	—
▲1.4P	—	10.0%	—
+2.6P	—	—	—

※1 FY2022 Q2：その他原価に含めていた配賦額106百万円を販管費に含めて再計算（FY2023より販管費で計上）

※2 FY2023 Q2：【連単差額】+29百万円・・・支払報酬料（M&Aに係る仲介手数料・専門家報酬）

※3 FY2023 Q2：【連単差額】+4百万円・・・持分法適用による営業外収益

◆ 売上高の拡大に伴い営業利益は増加
(前年同期比+105 百万円 15.3%)



※ うち▲29百万円はFY2023Q2支払報酬料の連結調整分

◆ DX支援・IT人材調達支援いずれも増収増益

◆ 受注残高は良好な水準

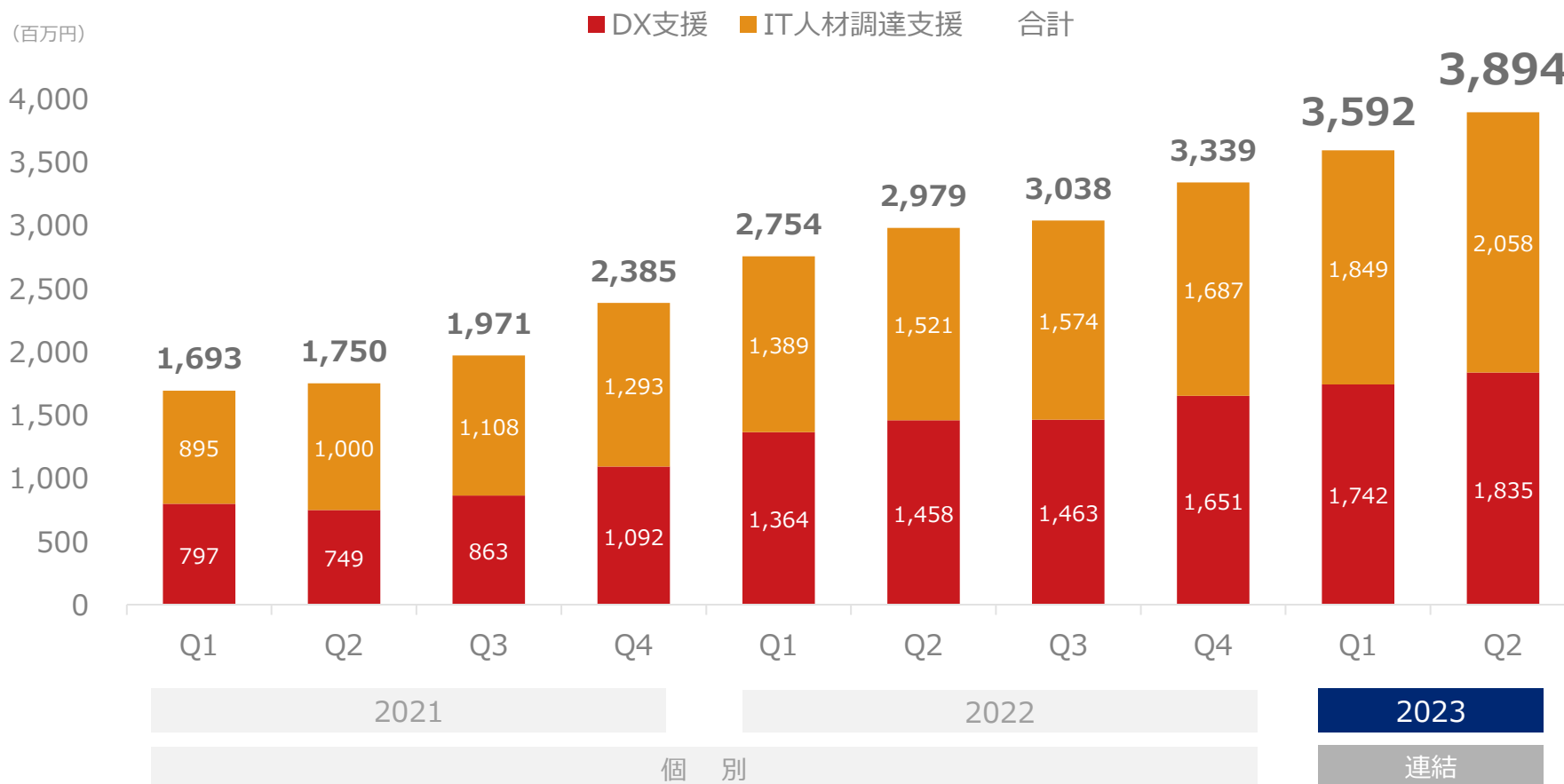
	個 別	連 結	単位：百万円	
	2022 Q2	2023 Q2	増減額	増減率
売上高	5,734	7,486	+1,752	+30.6%
DX支援	2,823	3,578	+754	+26.7%
IT人材調達支援	2,911	3,908	+997	+34.3%
売上総利益 ※1	1,514	1,913	+398	+26.3%
DX支援 ※1	1,058	1,264	+206	+19.5%
IT人材調達支援 ※1	456	648	+192	+42.1%
売上総利益率 ※1	26.4%	25.6%	▲0.9P	—
DX支援 ※1	37.5%	35.3%	▲2.1P	—
IT人材調達支援 ※1	15.7%	16.6%	+0.9P	—
受注残高（決算日時点）	1,960	2,790	+829	+42.3%
DX支援	1,027	1,482	+455	+44.4%
IT人材調達支援 ※2	933	1,307	+374	+40.1%

※1 FY2022 Q2：その他原価に含めていた配賦額（DX支援:96百万円 IT人材調達支援:9百万円）を販管費に含めて再計算（FY2023より販管費で計上）

※2 FY2023 Q2：ピージーシステム社分51百万円を含む

◆ DX支援・IT人材調達支援いずれも増収傾向を維持

- ✓ 3月決算の顧客が多いため、例年は4月（当社Q2）から翌年3月（当社Q1）にかけて売上高が増加していく傾向
- ✓ ピージーシステム社の売上高はFY2023 Q3から取り込む予定



◆ FY2023は前年同期比でQ1減益・Q2増益

✓ 例年は、Q1/Q3の営業利益率が高く、Q2/Q4が低くなる傾向（人件費、採用費、決算賞与引当金の影響）

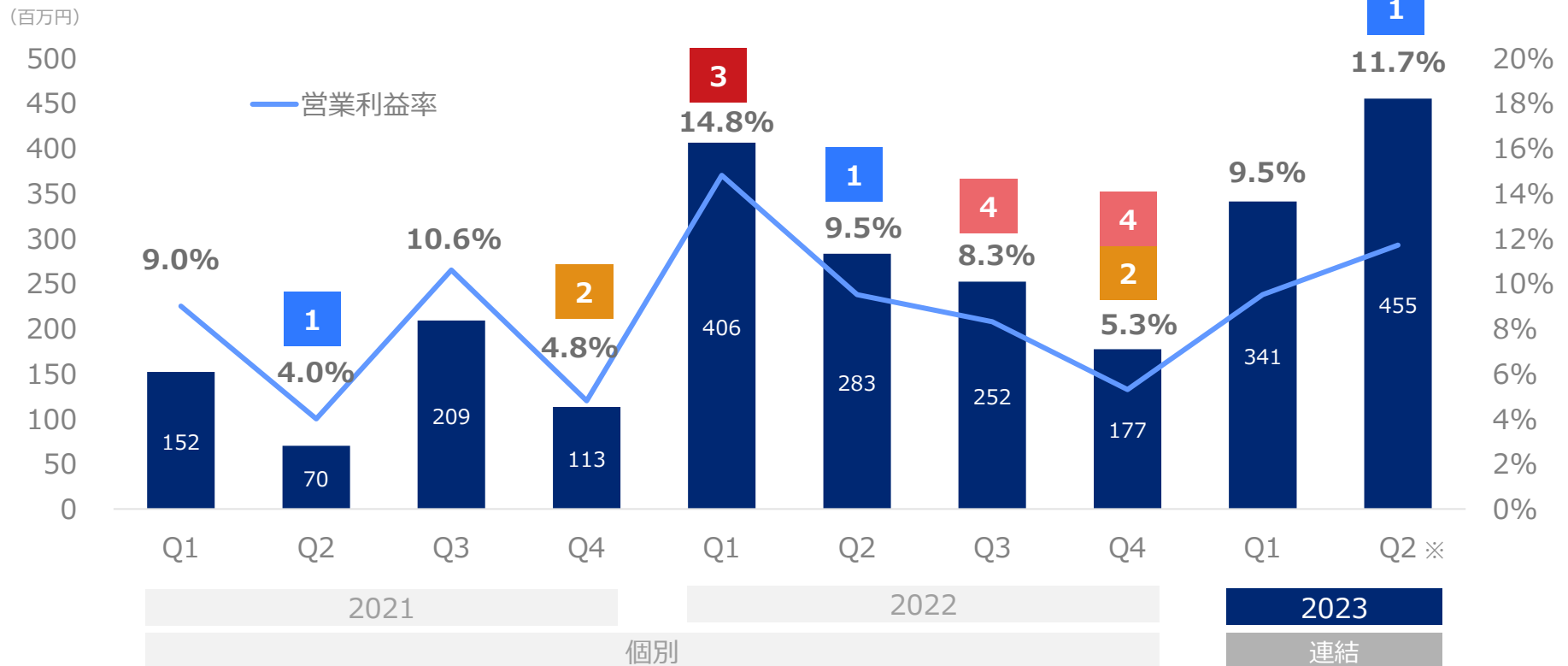
1 新卒&経験者採用の影響で**営業利益率Down**

2 決算賞与に係る引当金の影響で**営業利益率Down**
(FY2021:155百万円、FY2022:120百万円を販管費に計上)

3 主に好採算大型案件の売上計上で**営業利益率UP**

4 旺盛な需要に対応するための外注費増加で**営業利益率Down**

5 DX支援の粗利率改善で**営業利益率Up**

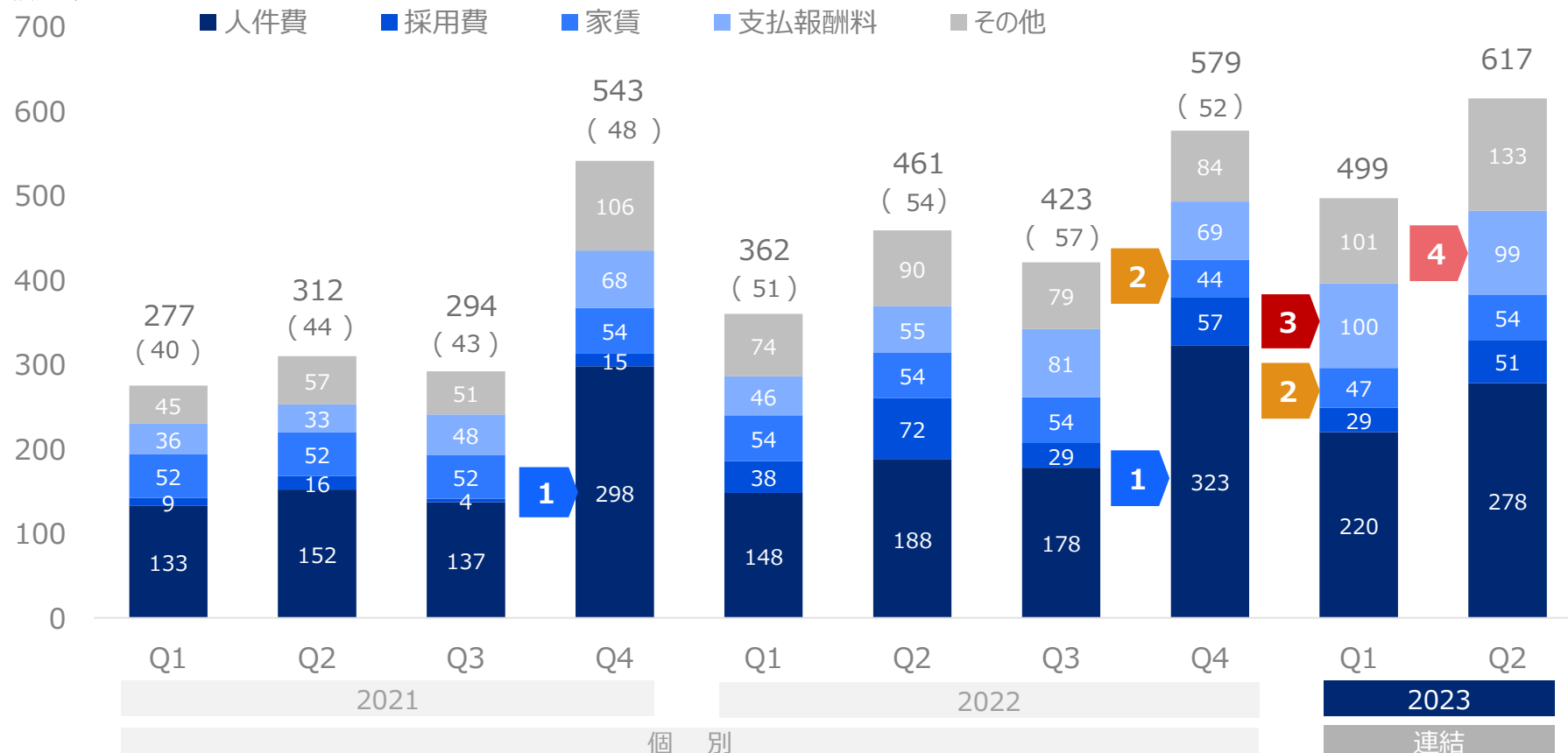


※【連単差額】▲29百万円・・・支払報酬料（M&Aに係る仲介手数料・専門家報酬）

◆ 社員採用が順調に進んでおり、人件費は増加傾向

- 1** 決算賞与引当金計上により、人件費が増加 (FY2021:155百万円、FY2022:120百万円を計上)
- 2** オフィス一部転貸の影響で減少
- 3** ウェビナー、コンテンツ制作等のマーケティング費用が増加
- 4** M&Aに係る仲介手数料・専門家報酬が増加 (連単差額)

(百万円)



※ FY2021は人件費（役員報酬）の一部を売上原価で計上

FY2022まで原価に含めていた配賦額を販管費（その他）に含めて再計算（FY2023より販管費で計上）。影響額は括弧内記載
人件費には役員報酬が含まれております

- ◆ 売上高は順調に拡大
- ◆ 外注費率の適正化が進み、売上総利益率及び営業利益率が改善

単位：百万円

	個 別			
	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4
売上高	2,754	2,979	3,038	3,339
外注費	1,579	1,805	1,990	2,105
人件費	349	343	375	392
その他原価 ※1	56	86	▲2	84
売上総利益 ※1	768	745	676	756
販管費 ※1,2	362	461	423	579
営業利益	406	283	252	177
経常利益 ※3	430	284	250	174
当期純利益	314	209	184	127
売上総利益率	27.9%	25.0%	22.2%	22.7%
営業利益率	14.8%	9.5%	8.3%	5.3%
外注費率	57.3%	60.6%	65.5%	63.0%

連 結	
2023 Q1	2023 Q2
3,592	3,894
2,241	2,372
426	416
85	31
840	1,072
499	617
341	455
356	455
261	318
23.4%	27.5%
9.5%	11.7%
62.4%	60.9%

※1 FY2022：その他原価に含めていた配賦額を販管費に含めて再計算（FY2023より販管費で計上）【影響額】Q1 51百万円 / Q2 54百万円 / Q3 57百万円 / Q4 52百万円

※2 FY2023：【連単差額】Q2 +29百万円・・・支払報酬料（M&Aに係る仲介手数料・専門家報酬）

※3 FY2023：【連単差額】Q1 +10百万円 Q2 ▲5百万円・・・持分法適用による営業外収益

単位：百万円

◆ DX支援の売上総利益率が大きく改善

	個 別				連 結	
	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2
売上高	2,754	2,979	3,038	3,339	3,592	3,894
DX支援	1,364	1,458	1,463	1,651	1,742	1,835
IT人材調達支援	1,389	1,521	1,574	1,687	1,849	2,058
売上総利益 ※1	768	745	676	756	840	1,072
DX支援 ※1	553	504	429	476	549	715
IT人材調達支援 ※1	215	240	246	279	291	357
売上総利益率 ※1	27.9%	25.0%	22.2%	22.7%	23.4%	27.5%
DX支援 ※1	40.5%	34.6%	29.3%	28.9%	31.5%	39.0%
IT人材調達支援 ※1	15.5%	15.8%	15.7%	16.6%	15.7%	17.4%
受注残高(決算日時点)	2,226	1,960	2,405	2,824	2,644	2,790
DX支援	1,296	1,027	1,273	1,593	1,443	1,482
IT人材調達支援 ※2	929	933	1,131	1,230	1,201	1,307

※1 FY2022は原価に含めていた配賦額を販管費に含めて再計算（FY2023より販管費で計上）

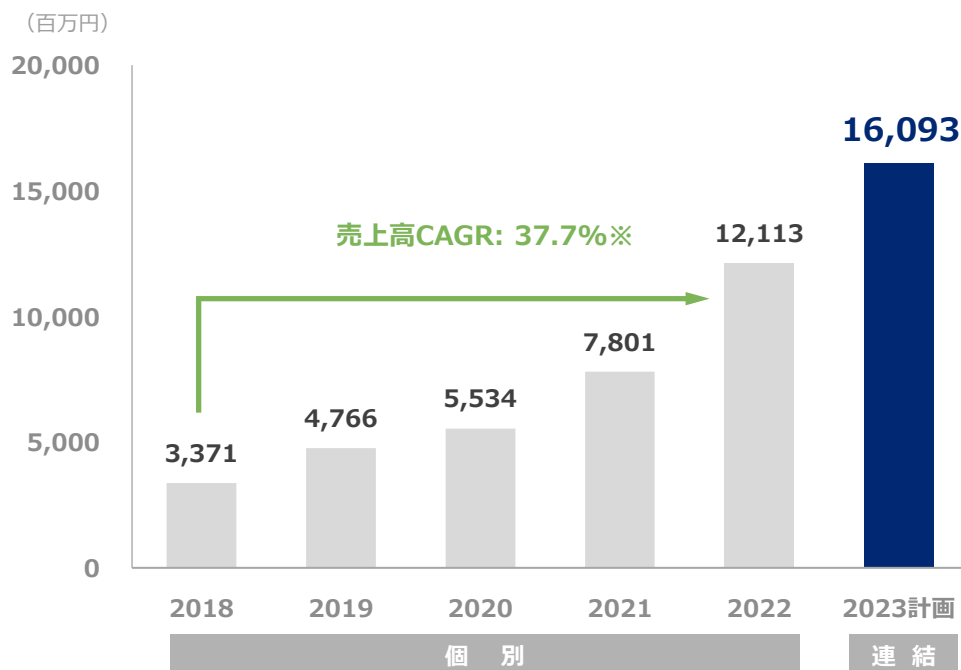
影響額 《DX支援》 Q1：47百万円 Q2：49百万円 Q3：52百万円 Q4：47百万円

《IT人材調達支援》 Q1：4百万円 Q2：5百万円 Q3：5百万円 Q4：4百万円

※2 FY2023 Q2：ピージーシステム社分51百万円を含む

- ◆ 年率30%以上の売上高成長を実現、今後も旺盛な需要を背景に売上高の成長を見込む
- ◆ 売上単価向上と販管費比率の低下により営業利益率は向上

売上高の推移

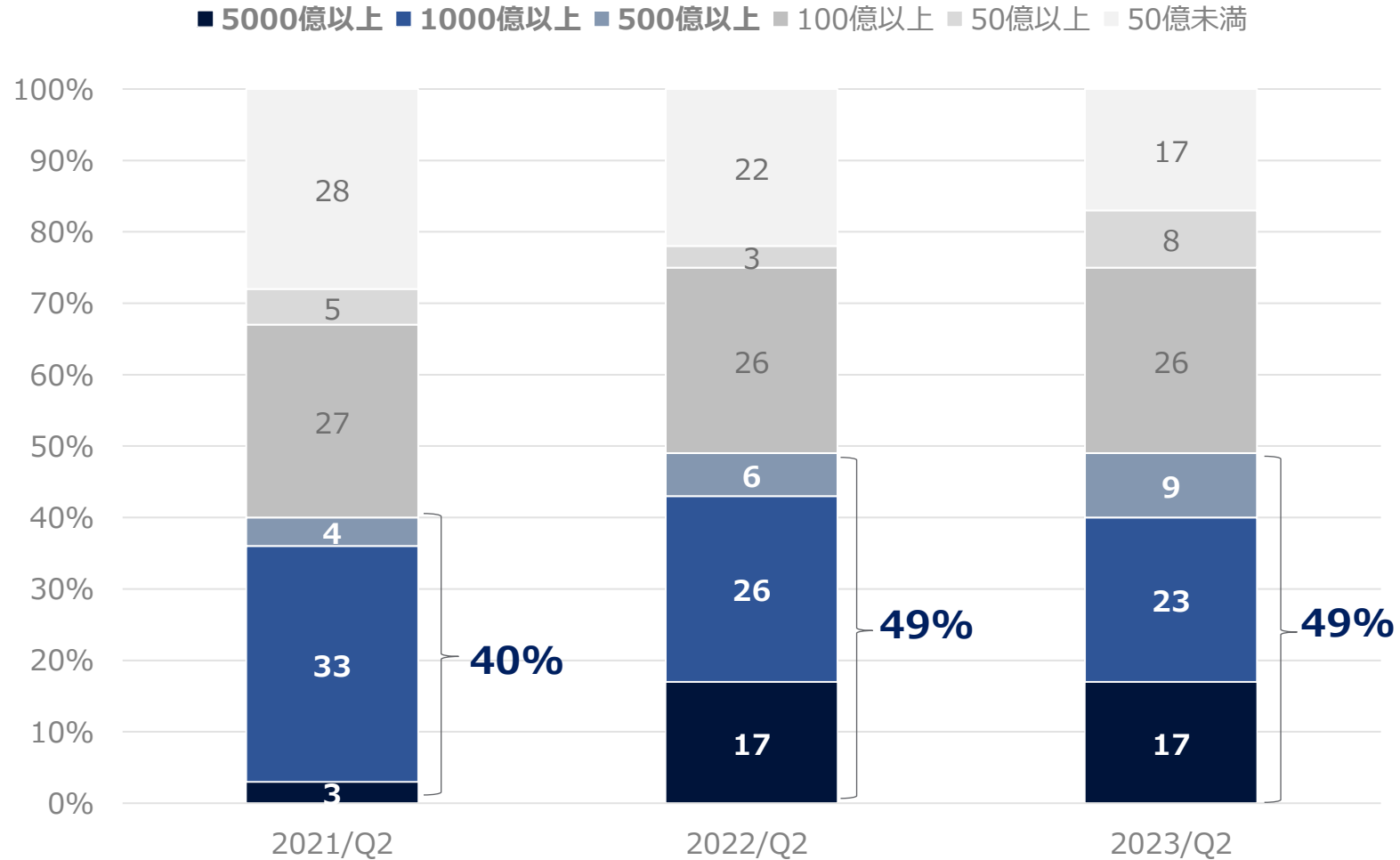


※CAGR : 2018/12期→2022/12期

営業利益・営業利益率の推移

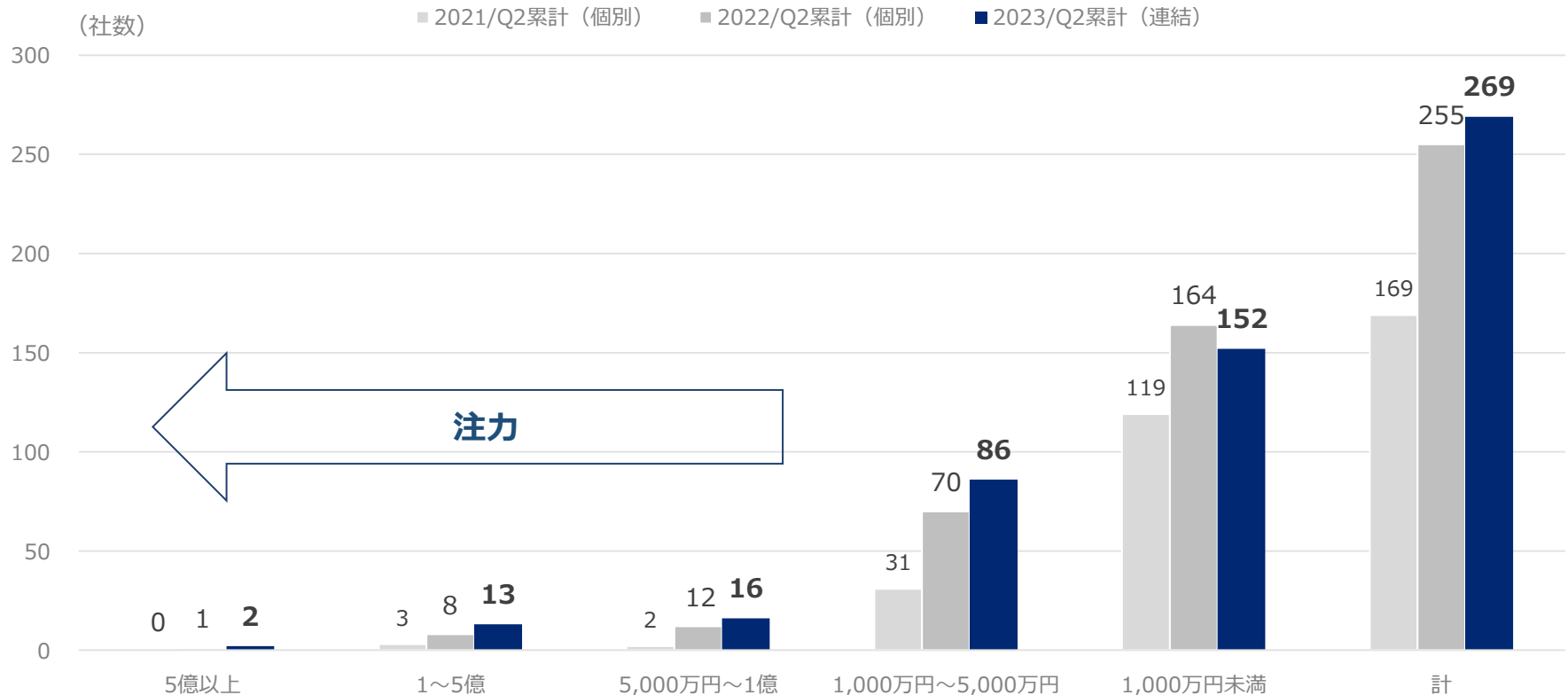


- ◆ 事例の蓄積による提案力の向上、上場やmeviy事例の公表による知名度向上等により、大企業との取引が拡大。受注単価の上昇に寄与

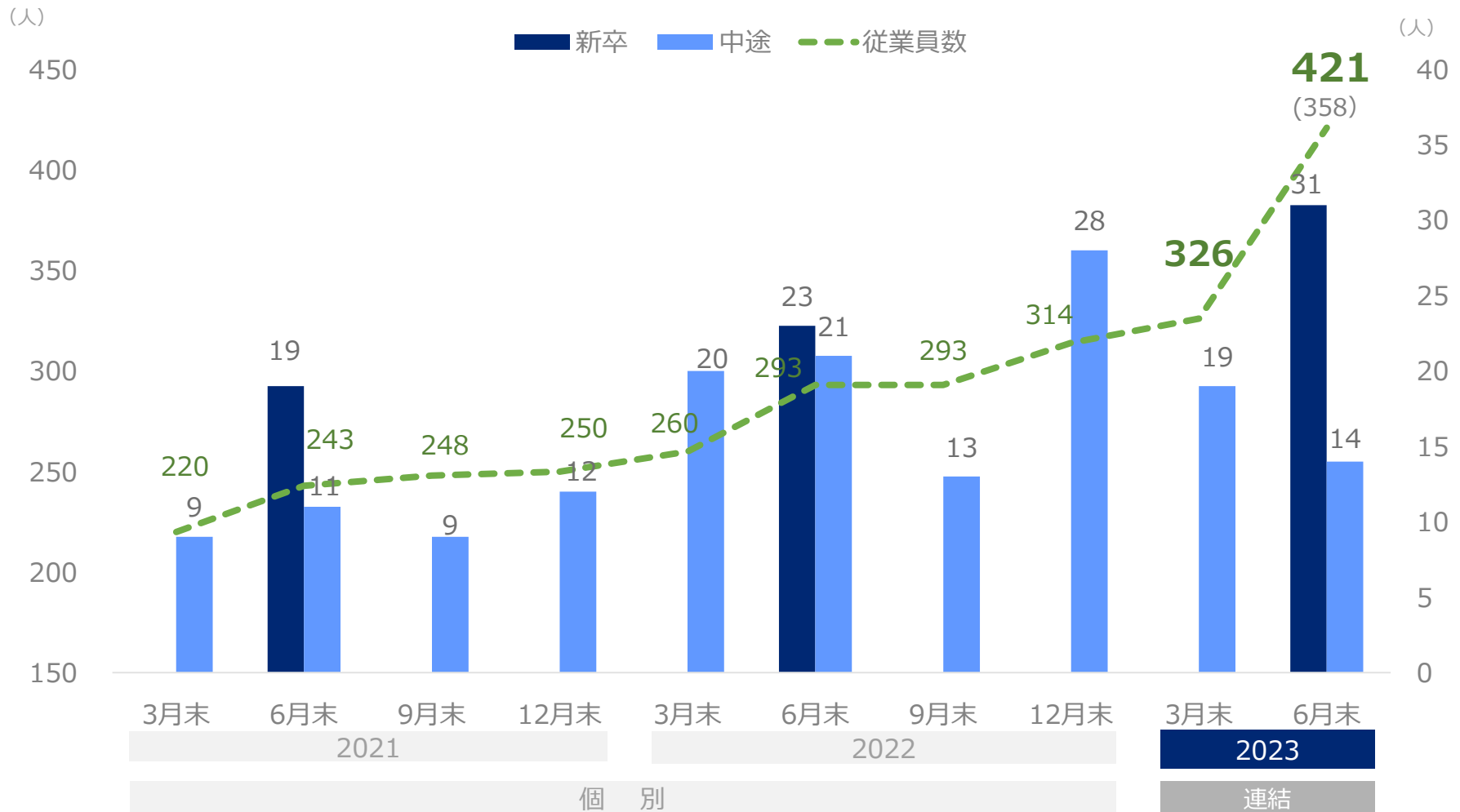


◆ 顧客満足度を上げることで既存顧客との取引を継続的に拡大し、大口取引先数を増加させていくことが成長のドライバー

売上高別取引先数 ※取引先ごとに四半期累計の売上高を集計し分類したものの



- ◆ 採用活動に注力しており、従業員数は順調に増加
- ◆ 2023年6月末からピージーシステム社分を含む



※括弧内はCCT単体の従業員数

◆ FY2023Q2よりページシステム社(PGS) のBSを取り込み連結開示

単位：百万円

	個 別	連 結		
	2022 期末	2023 Q2	増減額	主な増減要因
流動資産	4,351	4,781	+429	現預金の減少▲168 売上拡大に伴う売掛金の増加+580(CCT+525、 PGS+54)
現金及び預金	2,199	2,030	▲168	主にPGS買収による支出▲278 PGS連結による増加+109
固定資産	762	1,113	+351	オフィスのレイアウト変更に伴う什器代など+57 進行中の基幹システムリプレイス費用(ソフトウェア仮勘 定)+64 PGS買収によるのれんの発生+202
資産合計	5,114	5,895	+781	
流動負債	2,133	2,273	+139	外注費増加に伴う買掛金の増加+122(CCT+102、 PGS+20)
固定負債	134	141	+7	
純資産	2,846	3,480	+634	利益剰余金+581 ストックオプション行使に伴う資本金・資本準備金の増加 +52
負債純資産合計	5,114	5,895	+781	
自己資本比率	55.6%	59.0%	+3.4p	

3 ビジネスモデル

◆ 特定業種にフォーカスしたDX支援(一次請け)とあらゆる産業にリーチするIT人材調達支援(二次請け)で豊富な案件を獲得、「Ohgi」によるレバレッジでトップラインを伸ばす

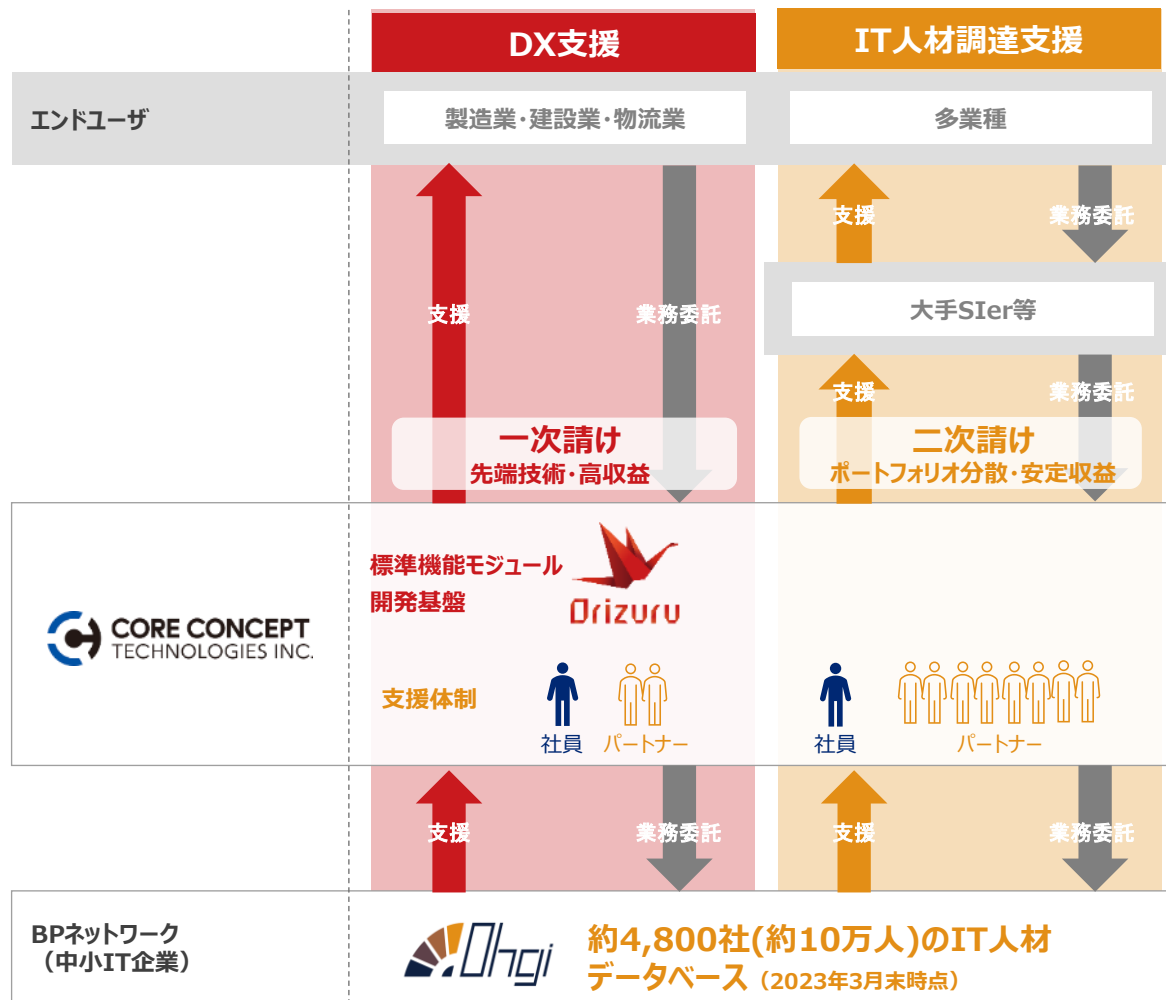
DX支援

- ✓ 顧客の業務プロセスとバリューチェーンを改革し、売上高の拡大や利益率の向上を実現。さらに内製化まで支援
- ✓ 標準機能モジュール+カスタマイズ開発基盤である「Orizuru」や、DX支援メソッドロジ「CCT DX-Method」を活用
- ✓ AIを中心とした技術力、ものづくりへの深い知見が強み

IT人材調達支援

- ✓ 大手SIer等の一時的なIT人材ニーズに対応するためプロジェクトの一部を二次請けで受託
- ✓ ビジネスパートナー (BP) の積極活用でレバレッジ
- ✓ 約4,800社の中小IT企業のネットワークを持ち、約10万人のITエンジニアにアプローチできるデータベース「Ohgi」が強み

※「Ohgi」ネットワークは当社が受注したDX支援サービスの案件でも活用し、パートナーと協働で案件に取り組んでいます



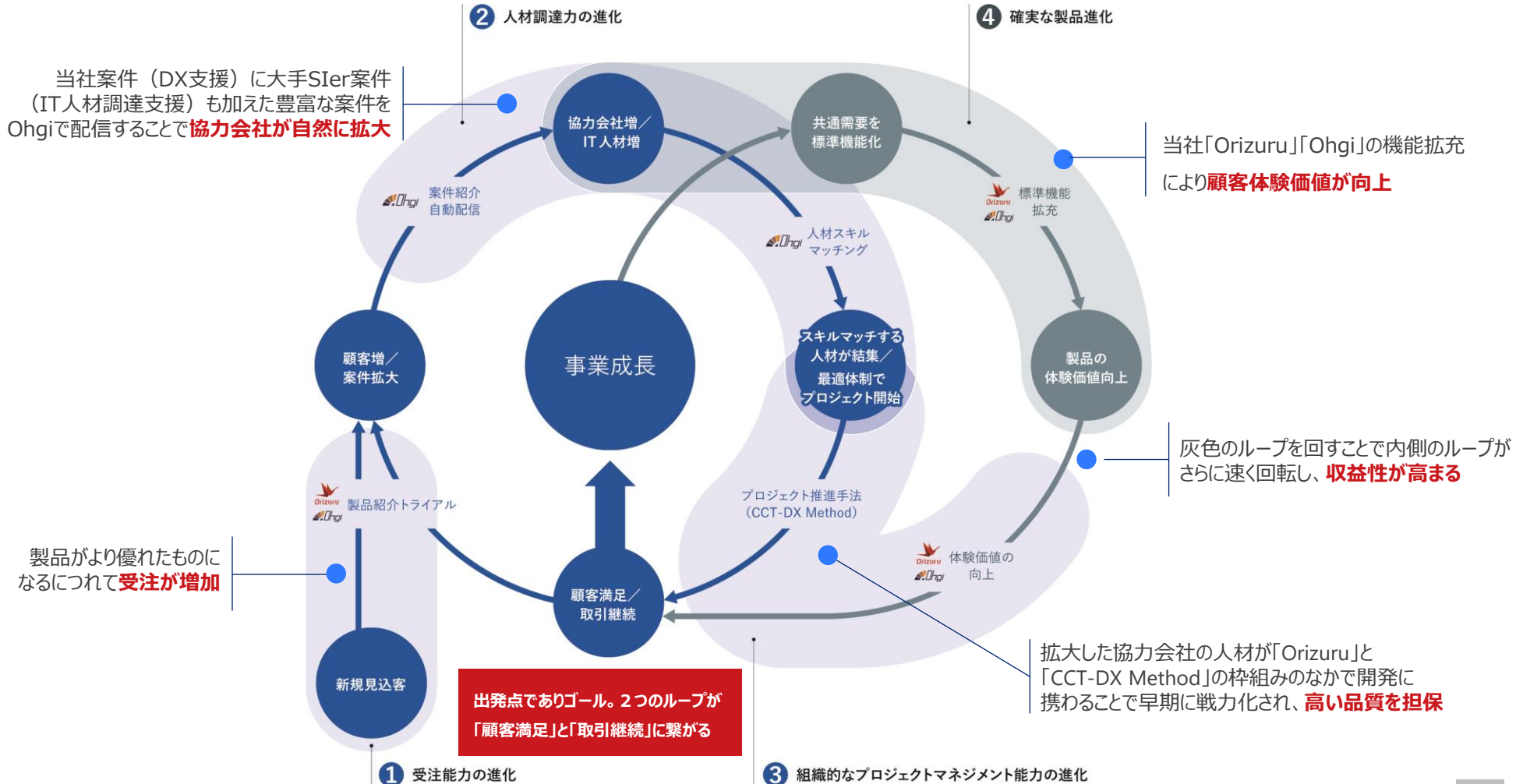
案件獲得

最適な体制構築

◆ 2つのループのシナジーで持続的な成長を実現。CCTの競争優位性を高める

青色のループは、受注～納品というオペレーションの流れ、つまり「収益が生まれる構造」を表す

灰色のループは各製品の価値を向上させるプロセス、いわば「製品進化の構造」を表す



- ◆ 強みを活かせる製造業・建設業・物流業にフォーカス
- ◆ Orizuruの活用により顧客のDXをスピーディに実現

※Orizuruの解説はP.35参照

製造業 (創業時～)

建設業 (2015年～)

物流業 (2023年～)

主な支援領域



設計・調達・製造

- ✓ 受注・調達 (Orizuru)
- ✓ スマートファクトリー (Orizuru)
- ✓ PLM (ArasInnovataor)
- ✓ ERP (mcFrame/インフォア)



設計・施工

- ✓ BIM連携システム/共通データ基盤
- ✓ 設計効率化 (AI活用)
- ✓ PLM (ArasInnovataor)



倉庫・輸送

- ✓ WMS (倉庫管理)
- ✓ TMS (輸送管理)

強み

- ✓ 3D形状処理技術 (CAD、幾何学の数的アルゴリズム、AIによる画像処理)
- ✓ 製造業の現場におけるものづくりの知見

- ✓ 製造業のDX支援実績
- ✓ BIM共通データ基盤の開発実績とBIMデータ (IFC) のハンドリング技術
- ✓ 建設業における幅広い業務知識

- ✓ 製造業のDX支援実績

◆ DX支援とIT人材調達支援を両方行うことで、「内製化後」も収益を確保できる独自のビジネスモデルを構築

DX支援プロセス（事業会社が対象）



主に大手SIerが対象



◆ 広範なBPネットワークであるOhgiを活用した提案力（スピード×質×量）

※Ohgiの解説はP.37参照

営業



- ✓ 大手SIerを中心に事業会社のニーズにも対応
- ✓ 顧客・BP双方とのリレーションが強く、競合他社（中小零細企業が多い）より信用力が高い

支援体制



- ✓ 上流～下流まであらゆるニーズに対応
- ✓ 一名～数十名規模のチーム組成に対応

人材調達



- ✓ 適切な人材を迅速に調達
- ✓ Ohgiはフリーランスではなく中小IT会社に所属する社員が中心のため、エンドユーザからの信頼性が高い

4 成長戦略

		顧客数の拡大・取引の大口化 DX支援産業領域の拡大	人的リソースの拡大
オーガニック	既存領域	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; margin-right: 10px;">製造業</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>Orizuru標準機能と事例紹介をベースに横展開</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; margin-right: 10px;">建設業</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #e69d00; color: white; padding: 5px; margin-right: 10px;">大手SIer</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>人員増強で拡大</div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-right: 10px;">首都圏</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>Ohgiネットワークのシェア拡大(現状50%程度)</div> </div>
	新規領域	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; margin-right: 10px;">物流業</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>案件受注済 大口顧客化を狙う</div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-right: 10px;">地方</div> <div style="border-left: 1px solid #ccc; border-right: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-right: 10px;"></div> <div>Ohgiネットワークの 全国展開</div> </div>
提携M&A	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・業界知見/顧客の獲得 ・Orizuru機能拡張の時間短縮 	人的リソースの確保
	ターゲット	DX支援産業領域の拡大と合致する領域に強みを持つIT企業	主に地方の中小IT企業
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・REVA1号投資事業有限責任組合への出資 ・REVA(株)との業務提携(2023年3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 2社を100%子会社化 ・(株)ピージーシステム(2023年5月) ・(株)電創(2023年8月)



DX支援



IT人材調達支援

◆ 株式会社電創の株式を取得し、8月1日付で完全子会社化



- ✓ 電創社を子会社することにより、リソースの確保による事業拡大を図る
- ✓ 当社が受注した案件への参画や受注力の向上、採用や人材育成のノウハウ提供等により電創社の成長に貢献することで、両社の発展を実現する

名称 株式会社電創

所在地 神奈川県川崎市幸区大宮町15番地1

事業内容 ソフトウェアの受託開発、システムの運用・保守

設立 1990年5月22日

契約日 2023年2月1日

株式譲渡日 2023年8月1日 (FY2023 Q3より連結予定)

譲渡価額 38百万円 (概算)
※株式10百万円+エージェントフィー等28百万円 (概算)

売上高 196百万円 (2023年3月期)

営業利益 11百万円 (2023年3月期)

従業員数 32名 (2023年7月末時点) ※役員2名含む

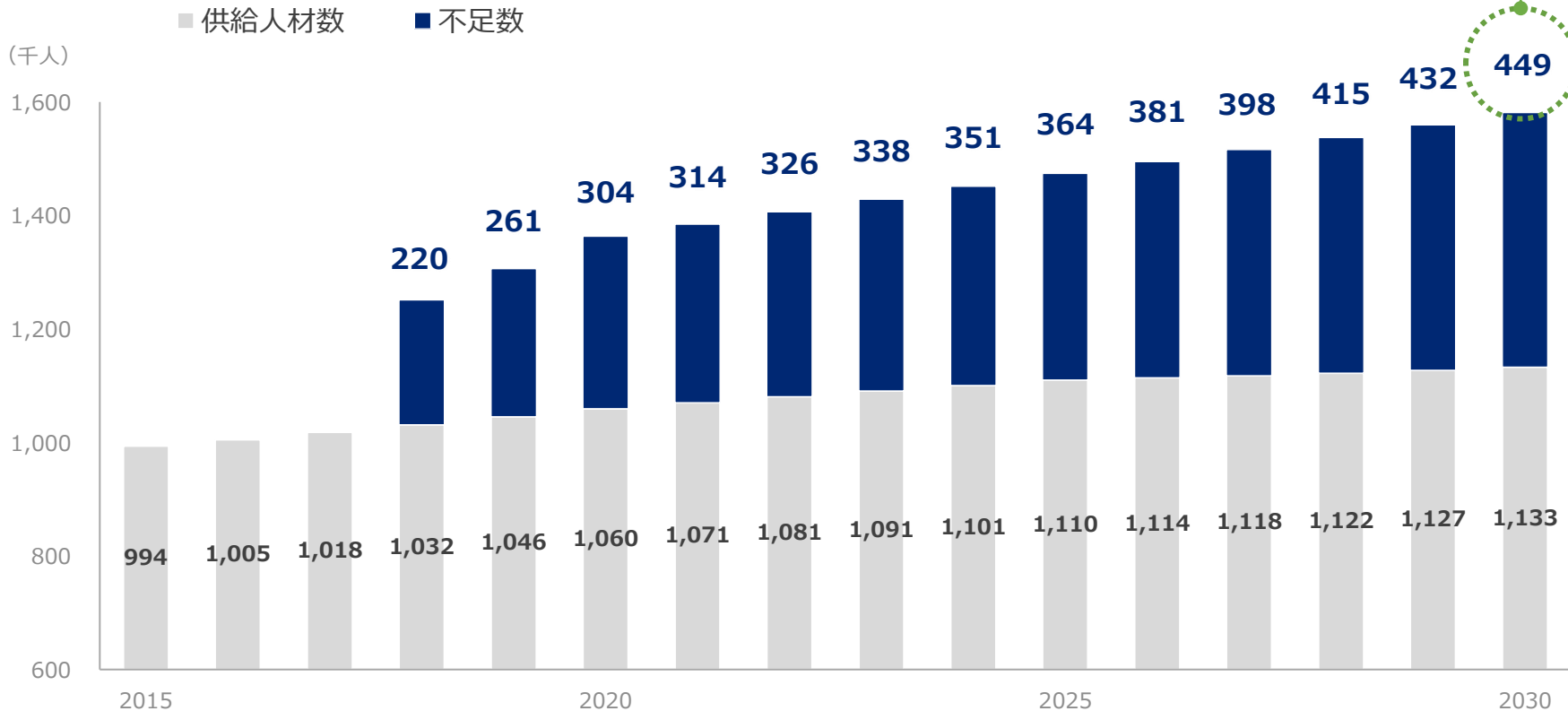
- ◆ DX投資は飛躍的な増加が見込まれる
- ◆ 製造・建設と親和性が高い交通・運輸業界へDX支援事業領域を拡大

産業・業務領域	2021年（億円）	2030年予測（億円）	CAGR 30/21(%)	
交通・運輸	3,215	11,795	15.5	← 今後の注力分野
金融	2,465	8,880	15.3	
製造	2,590	8,130	13.6	← 現在の注力分野
流通・小売	516	1,852	15.2	
医療・介護	896	2,052	9.6	
不動産	435	1,514	14.9	
自治体	520	1,760	14.5	
営業・マーケティング	1,630	3,240	7.9	
カスタマーサービス	231	462	8.0	
その他	10,675	25,509	-	
合計	23,173	65,194	12.2	

※出所：富士キメラ総研 2023年1月30日「2023デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」

◆ IT人材調達力が事業競争力を大きく左右する時代に

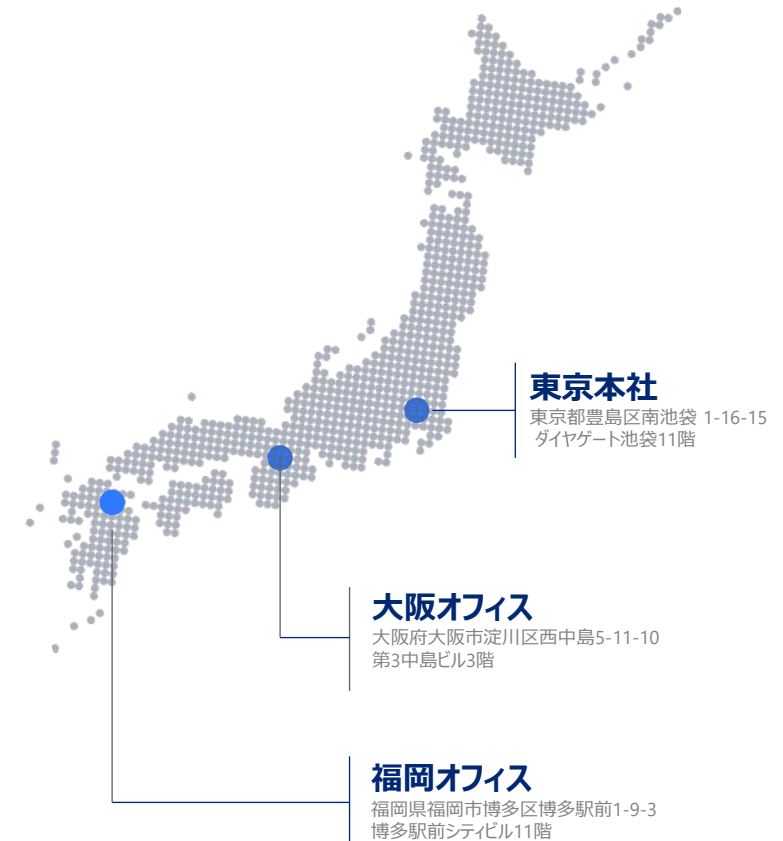
IT人材需給に関する試算



※出所：みずほ情報総研 2019年3月「IT 人材需給に関する調査」

5 APPENDIX

会社名	株式会社コアコンセプト・テクノロジー（略称：CCT）
事業内容	顧客企業のDX支援、IT人材調達支援
所在地	東京都豊島区南池袋1-16-15 ダイアゲート池袋11階
代表者	代表取締役社長CEO 金子武史
設立日	2009年9月17日
資本金	559,848千円（2023年6月30日時点）
決算期	12月
従業員数	連結：421人、単体：358人（2023年6月30日時点）
拠点	東京（本社）、大阪、福岡



グループ会社

会社名	株式会社ピージーシステム（100%子会社）	山口県宇部市松島町18番10号太陽生命宇部ビル2F
会社名	株式会社電創（100%子会社）	神奈川県川崎市幸区大宮町15番地1小森山ビル6F

Our Purpose **テクノロジーと人の力で産業のサステナブルな発展に貢献します**

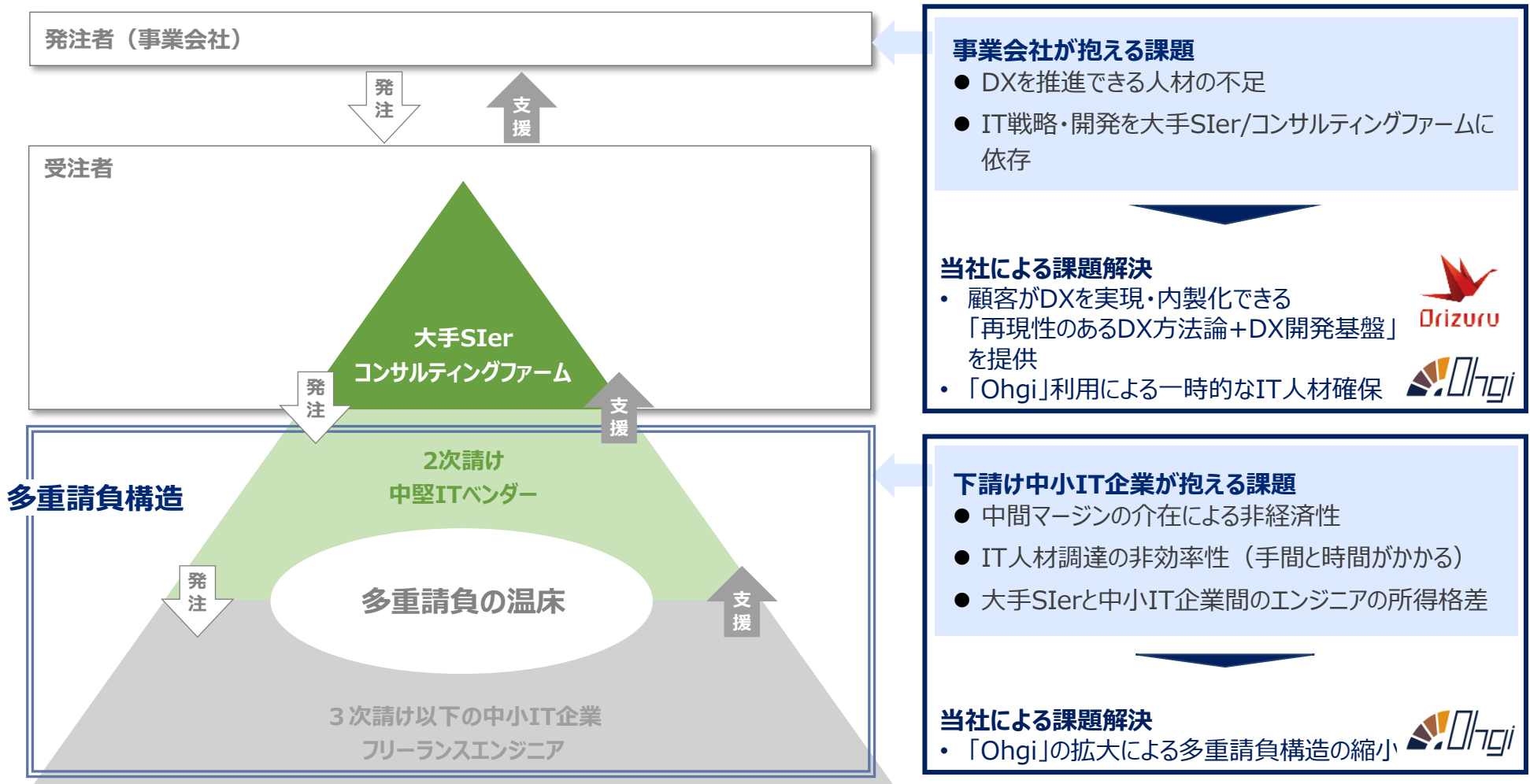
What We Do **IT 産業の次世代を創出する**

- ✓ 私たちは製品の進化及び人の進化により、各産業が持続可能な形で発展する未来の姿を描き、それを実現する仕組みを構築することにより、持続可能な社会の実現に貢献します。
- ✓ 私たちはDX（デジタル・トランスフォーメーション）により顧客の業務プロセスとバリューチェーンを改革し、売上高の拡大や利益率の向上を実現する過程で、資産効率性や、エネルギー効率性等の向上による環境負荷低減や、労働生産性向上による人手不足の解消、ベテランのノウハウ継承などの課題を解決し、産業のサステナブルな発展に貢献します。
- ✓ 私たちは中小企業を中心とした広範なビジネスパートナーネットワーク「Ohgi」を活用することにより、日本のシステムインテグレーション業界における多重請負構造の弊害（中間マージンによる非経済性）や、IT人材の地域間所得格差の縮小に貢献します。

Our Values **Think Big, Act Together.**

- Think Big** 常識や固定観念を取り去って、自由に発想をぶつけよう。
意志を持って進めていけば、世界が求める新しい価値に気づくことができるはず。
- Act Together** 私たちは、お客様にも社員にもそして多くの関係者にも支えられている。
その理解を日々の行動に結びつけるため、Act Together の精神を貫く。

◆ 当社はIT業界の多重請負構造を縮小し、企業が自律的にDX推進を行う世の中に変革する



- ◆ DX支援は、製造業・建設業を中心に支援
- ◆ IT人材調達支援は、大手SIerを通じて幅広い業種に対して支援

DX支援



OBAYASHI



Link to Good Living

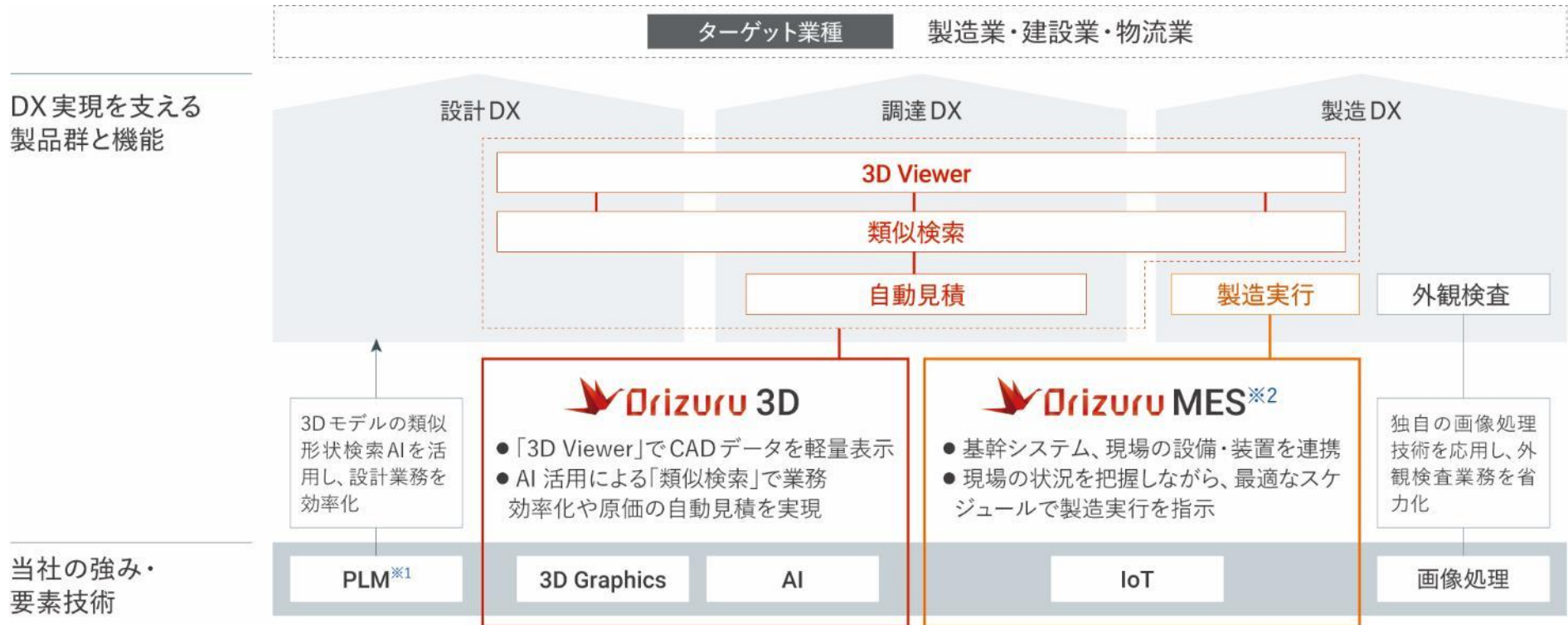
IT人材調達支援



※五十音順・敬称略

※売上高に占める既存顧客の比率が9割程度となっており、既存顧客からの継続的なリピート受注が安定的な高成長のベースとなっております。

- ◆ DX開発基盤Orizuruにより、迅速かつ低コストに顧客の要求機能を実現
- ◆ 様々な開発案件を手がけることでOrizuruの標準機能も進化（基本的に開発投資は必要ない）



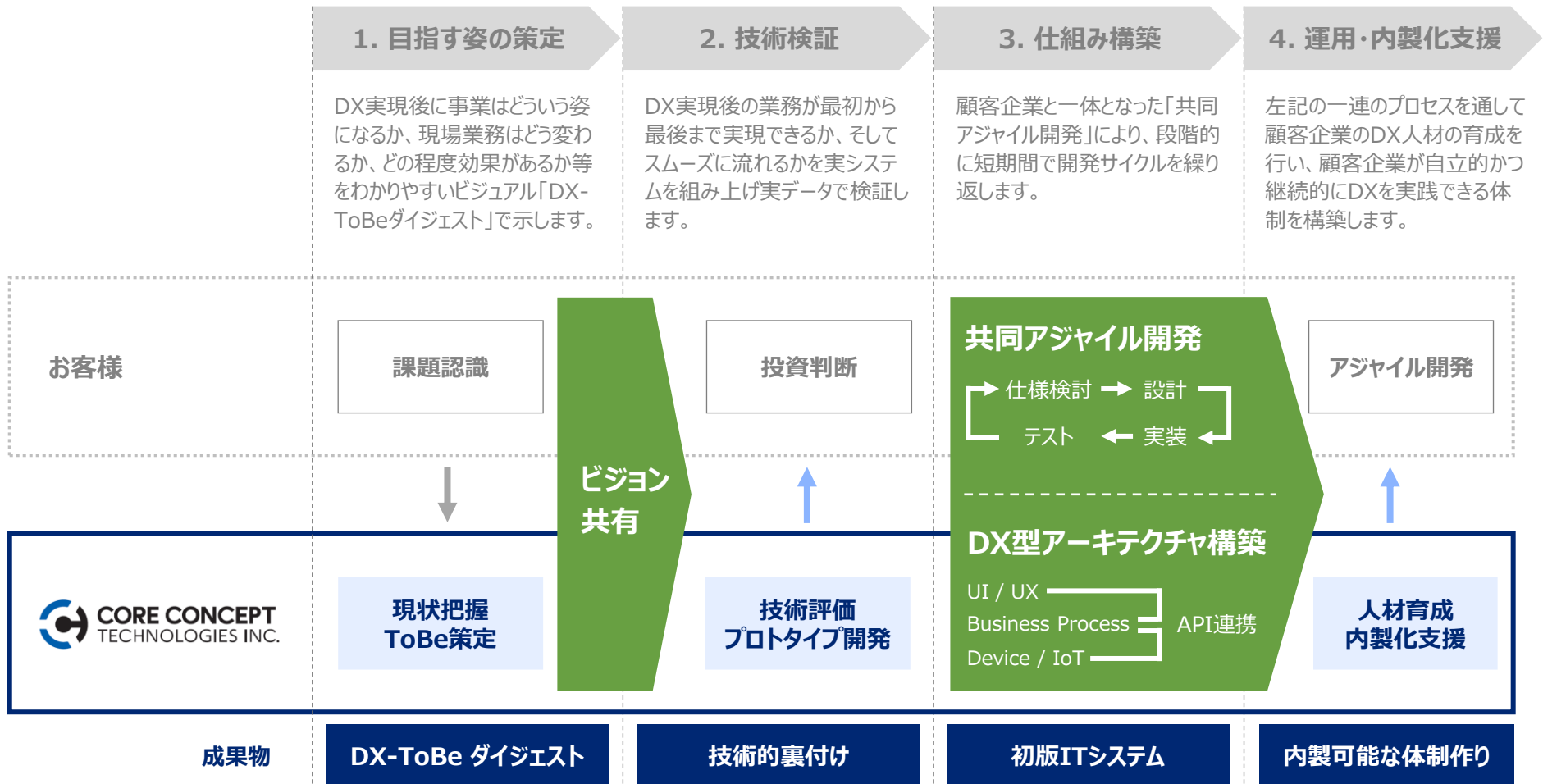
※1 「Product Lifecycle Management」の略。製品ライフサイクル全体に渡って発生する様々な技術情報を集約して、製品開発力や企業競争力を強化すること

※2 「Manufacturing Execution System」の略。製造工程の把握や管理、作業者への指示や支援などを行う「製造実行システム」のこと

当社がDX支援を続ける中で多くの顧客に共通のニーズがあることに着目。2016年、それらに対応する機能を備えた「Orizuru」を製品化。

「繊細な『折り鶴』のような技術力を持つ日本の製造業を元気にしたい」という思いから、「Orizuru」と名付けた。

- ◆ Orizuru・Ohgiを活用し、顧客のDX実現・内製化までを伴走支援する独自手法
- ◆ 案件と従業員数が増加しても、品質/顧客満足を堅持し続けることが狙い

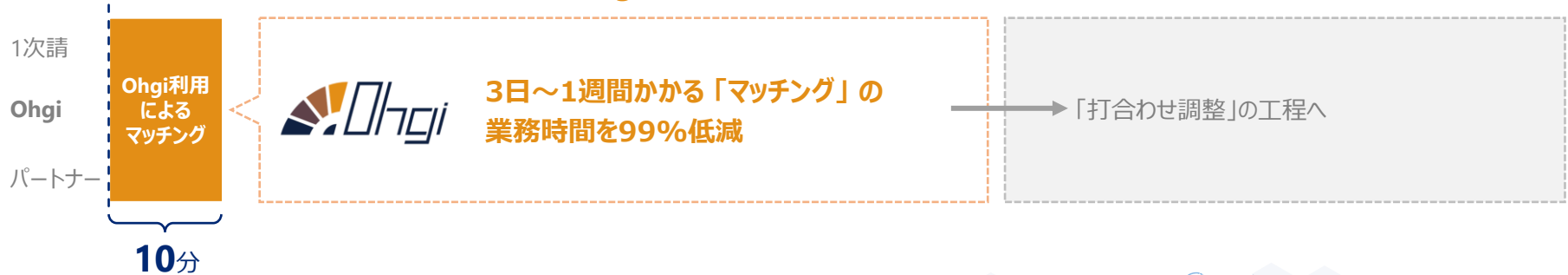


- ◆ Ohgiにより案件一人材マッチング業務時間の大幅短縮
- ◆ 中小IT会社の大規模ネットワークを形成

従来の多重請負構造における業務プロセス（依頼～提案に3日～1週間の期間を要する）



Ohgi利用時のマッチング業務プロセス



Ohgiの特長

- ✓ 東京を中心に **約4,800社**（約10万人）をネットワーク
- ✓ **中小IT会社** が主な対象（フリーランス中心ではない）
- ✓ 今後は **地方へネットワークを拡大**

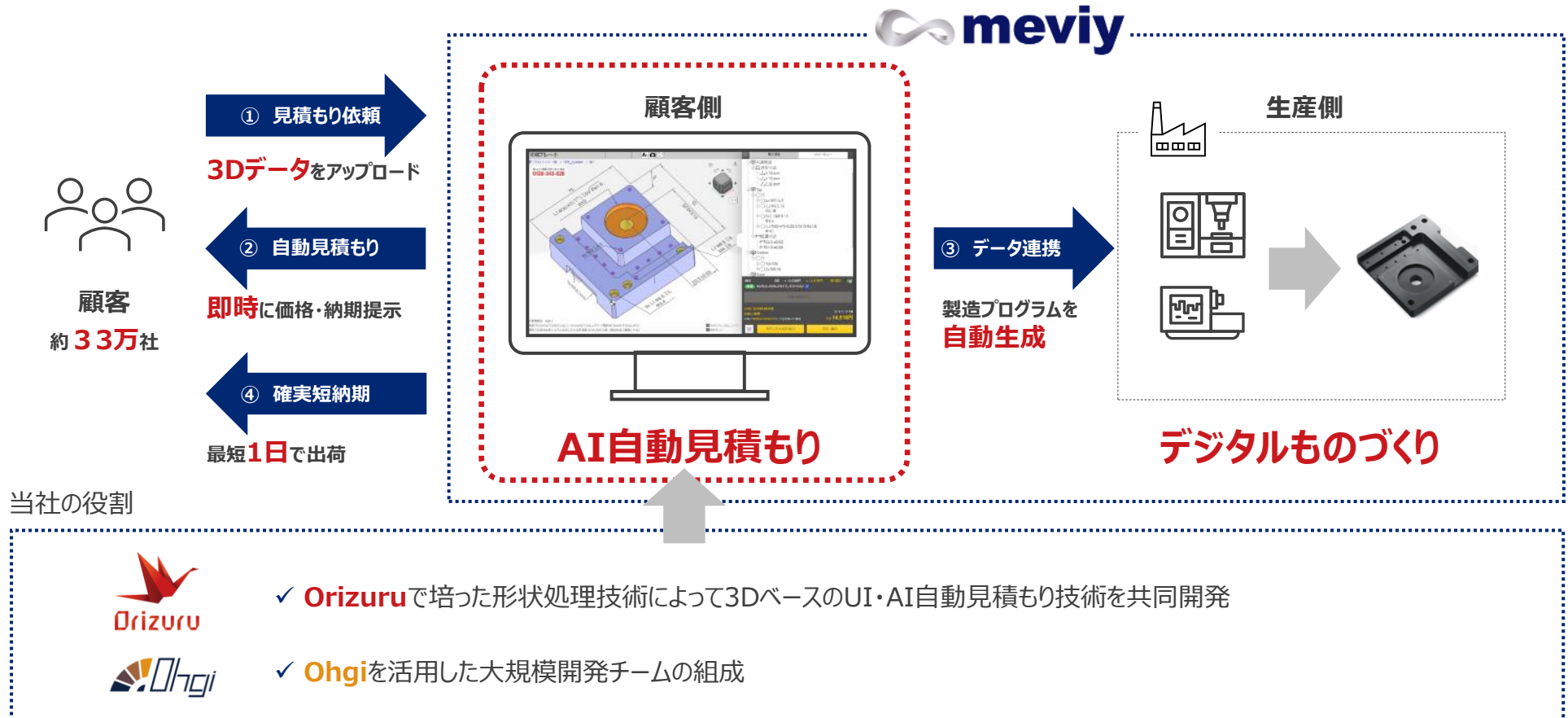


創業時から開拓してきた多くのビジネスパートナーと、そこに所属する社員の情報を網羅した人材ネットワークをデータベース化。

「CCTを核（起点）として全国に扇状に広げていきたい」という思いから「Ohgi」と名付けた。

部品受発注プラットフォームの開発

設計データをアップロード、即時見積もり、最短即日出荷を可能にするサービスの構築支援 AI自動見積もりの領域に「Orizuru」開発で培った形状処理技術を活用



※meviyは第9回ものづくり日本大賞において、内閣総理大臣賞を受賞しました

スマートファクトリー構築支援

- ✓ スマートファクトリーの全体構想をイメージ化
- ✓ 製造ラインの改革～生産管理・品質管理、生産計画を含むDXを策定
- ✓ 実証ラインで技術的課題を解消
- ✓ 各工程における変革方針と改善効果、ROIを確認

設備毎の生産計画最適化

各生産設備毎に平準化され計画された時間単位の生産計画の立案

期待する効果：属人的作業の低減



技能員への着工指示

各技能員への優先度の高い作業を指示する着工指示リストを発行

期待する効果：作業効率化



技能員への準備作業指示

加工に必要な刃具類などの準備物の指示及び2次元バーコードによる個体識別

期待する効果：作業効率化、ミス防止



自動加工条件調整

自動測定結果、各種センサデータを元に、試験加工、加工条件調整、製造を実行

期待する効果：生産性の向上、品質向上



リアルタイム生産状況把握

従来現地把握・月次集計であったものを、どこでもリアルタイムで監視・把握

期待する効果：リモート化、リアルタイム把握



設計BIMマネジメントシステム開発

- ✓ オープンBIMを実現する設計マネジメントシステム開発支援
- ✓ 様々なBIMモデル（IFCデータ）の処理・表示にOrizuru 3Dを活用
- ✓ 設計品質の向上・安定化を支援
- ✓ Orizuru 3Dの開発ロードマップ^oに設計ユーザのニーズ・知見を盛り込み

外部システムとの連携

外部システムとの連携によるコンデータ活用範囲の拡張を行うことで、設計業務全般のデータ連携を強化し、そのデータ活用による建築設計品質を向上する。

期待する効果：設計品質の向上



設計ノウハウのシステム化

設計者の高度なノウハウのシステム化の推進・実行によって、設計品質を向上、安定化する。働き方改革などの社会的要請に向けた設計業務の生産性向上へも寄与。

期待する効果：設計品質の向上、生産性の向上



共同開発

Orizuru 3Dの開発ロードマップへ設計ユーザのニーズ・知見を盛り込むことによって、建設業界へ最適化されたDX開発基盤として成長。

期待する効果：Orizuru3Dの価値向上



BIM/CIM：コンピューター上に現実と同じ建造物の3次元モデルを再現し、建築・建設のライフサイクル全体に渡って発生する様々な技術情報を集約してエンジニアリングチェーンを繋ぎ、建築・建設業務の効率化・高度化を実現し、企業競争力を強化すること。BIMは建築分野を対象とし、CIMは土木・建設分野を対象とするが、建築物や地形などの3次元モデル管理をまとめて「BIM/CIM」と呼ぶ。

リモート管理センター新設支援

ベテラン職員の知見伝承、若手の人材育成の課題を解消 情報の一元管理により生産性の向上と現場従業員の働き方改革を達成

遠隔コミュニケーション

ベテランの大量退職により現場力の維持が難しい課題に対し、映像等の現場の情報をリモート管理センターでリアルタイムに同期することで、遠隔地からでも現場と同等以上の情報を得られ、ベテラン職員が隣にいるかのようなサポートを行えるようにした。

期待する効果：生産性の向上、知見伝承、リモート化



現場業務の集約

現場を担う中堅層が少なく、担える現場の数が減少し、収益確保が難しくなる懸念があった。これに対し、これまで現場で行っていた書類作成や写真整理といった各現場共通の単純業務をリモート管理センターに集約し、現場の業務負荷を軽減した。

期待する効果：働き方改革、収益確保



次世代型人材育成

中堅層が少ないため若手教育の機会が慢性的に不足しており、知見伝承のサイクルが回らなくなるという課題があった。これに対し、リモート管理センターに蓄積した現場情報からVRを活用したケースメソッド（疑似体験）型の教育コンテンツを作成。かつ、過去のナレッジはいつでも参照可能な状態で管理し、業務内で自発的な伝承機会を得られるシステムを確立した。

期待する効果：知見伝承、人材教育スピードアップ



◆ マテリアリティへの取り組みを通じて、企業価値を向上させていきます

	マテリアリティ	主な取り組み実績
事業活動を通じて社会課題解決	顧客のDXを通じたサステナビリティの実現 「Orizuru」で顧客のDXを推進することにより事業持続性・売上・利益を高め、産業の持続可能な発展に貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働生産性の向上(ミスミ) ● 環境負荷低減(ファインシンター)
	未来を創るIT人材の創出 IT技術者のスキル向上と、「Ohgi」ネットワークの拡大により、多重請負構造から生じる問題を解消し、IT産業の持続可能な発展に貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー人材数の増加 約6万3千人(2021年) →約10万人(2022年) ● 「Ohgi」の地方への拡大
企業活動を通じて社会課題解決	地球環境保全への率先行動 ●ゼロカーボン経営の実現 ●サーキュラーエコノミー経営の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社、データセンターでの再エネ100%を実現(Scope1,2) ● 不要PCのリサイクル
	一人一人が活躍できる組織 ●「CCT WAY」の浸透 ●従業員のエンゲージメント推進による組織力の強化 ●働きやすく、働きがいのある環境構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 人事評価に組み込み、CCT WAY研修の実施 ● 全社会、役員交流会、交流ワークショップの実施 ● ワークライフバランスの推進、人材育成への投資
	レジリエントな事業基盤 ●データセキュリティ、システムのリスク管理 ●透明性の高いガバナンス・コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● データセキュリティ ● 指名・報酬委員会の設置、社外取締役役に女性が就任

スマートファクトリー構築支援で環境負荷低減

当社は製造業のDX支援として「Orizuru」を使ったスマートファクトリーソリューションを提供しています。2021年から株式会社ファインシンター様の生産管理・品質管理、生産計画を含む製造ラインの改革支援を開始し、各生産設備の生産計画の最適化や、各種センサーデータと自動測定結果を基に製造生産を進められる仕組みの構築を行ってきました。スマートファクトリー化することで生産性の向上はもちろん、環境負荷低減にも貢献しています。

「プロフェッショナル」を目指すCCT WAY 研修

当社がベンチャーから次のステージへと成長するための研修です。若手・中堅社員を対象に半期に一度、ビジネス論理思考やライティング&プレゼンテーションなど、テーマが異なる全5回の研修を開催しています。本研修を通して、「CCT WAY」を体現するためのベーススキルを磨くとともに、社会人としての視座の向上も目指しています。



		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
新卒採用者数	男性	15人	17人	19人	20人
	女性	2人	5人	0人	3人
キャリア採用者数	男性	38人	33人	34人	66人
	女性	8人	4人	7人	16人
離職率		14.8%	10.0%	8.8%	12.8%
平均勤続年数		2.74年	2.79年	2.15年	3.03年
時間外労働時間		19.88時間	22.08時間	22.81時間	21.92時間
産休育休後の復帰率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
時短勤務制度の利用者	数	2人	2人	2人	4人
	率	1.10%	0.95%	0.80%	1.27%
男女間賃金格差		85.2%	80.2%	82.6%	80.3%

※7/19発行の統合報告書もあわせてご参照ください。

- 本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。
- 本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予想に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれます。そのため、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。



CORE CONCEPT
TECHNOLOGIES INC.

